令和７年５月２９日
農推第１３４３－２号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

目次	ページ
特に発生に注意【なす（施設栽培）：うどんこ病、アザミウマ類、ねぎ：ネギアザミウマ（えそ条斑病）、もも：せん孔細菌病】	1～2
病害虫の発生予報（6月）	3
水稲、野菜【なす（施設栽培）、ねぎ、野菜類・花き類】	4～7
果樹【ぶどう、もも、みかん、いちじく、果樹類】	7～10
花き【きく】	11
その他注意すべき病害虫【スクミリンゴガイ、クビアカツヤカミキリ、トマトキバガ】	12～13

特に発生に注意（6月）

なす（施設栽培）：うどんこ病

葉表の病斑

葉裏の病斑

特徴

◆ チッソ過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

◆ 発生が見込まれる時期に、**ベルクート水和剤**、**フルピカフロアブル**等を、発生を認めたら、**パレード20フロアブル**、**パルミノ**等を散布する。

◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

なす（施設栽培）：アザミウマ類

ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

◆ 苗からの持ち込みにより本ぽでの発生が多くなる。

◆ ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが果実や葉を加害する。なお、ミカンキイロアザミウマの果実被害は、水なすで目立つ。

防除のポイント

◆ 葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

◆ 開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。

◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

◆ 発生を認めたら、**モベントフロアブル**、**アグリメック**、**スピノエース顆粒水和剤**等を散布する。

◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

次回の情報は6月下旬にお知らせします。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

ねぎ：ネギアザミウマ（えそ条斑病）

えそ条斑病の葉の病斑

ネギアザミウマ成虫

特徴

- ◆ ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。
- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するIYSV（アイリスイエロースポットウイルス）によるウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が癒合拡大し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するネギアザミウマの防除を徹底するとともに、発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ IYSVは一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、**プレオフロアブル、アグリメック**（アザミウマ類）、**リーフガード顆粒水和剤**等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

もも：せん孔細菌病

春型枝病斑

葉の病斑

特徴

- ◆ 春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。
- ◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、**バリダシン液剤5**、**スターナ水和剤**等を散布する。
- ◆ 春型枝病斑を見つけたら、切り取ってほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。
農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

病害虫の発生予報（6月）

作物名	病害虫名	予想発生量（6月）
水稲	ヒメトビウンカ（縞葉枯病）	平年並
なす（施設栽培）	すすかび病	平年並
	灰色かび病	平年並
	うどんこ病	やや多い～多い
	アザミウマ類	やや多い～多い
ねぎ	さび病	少ない～やや少ない
	べと病	やや少ない～平年並
	ネギハモグリバエ	やや少ない
	ネギアザミウマ（えそ条斑病）	やや多い～多い
野菜類・花き類	シロイチモジヨトウ	平年並～やや多い
	ハスモンヨトウ	平年並～やや多い
	コナガ	やや多い
	オオタバコガ	平年並～やや多い
	アブラムシ類	やや少ない
ぶどう	灰色かび病	やや少ない
	べと病	平年並
	チャノキイロアザミウマ	平年並
もも	せん孔細菌病	やや多い～多い
	シンクイムシ類	平年並
みかん	黒点病	平年並
	ミカンハダニ	やや少ない
	カイガラムシ類	平年並
いちじく	アザミウマ類	少ない
果樹類	果樹カメムシ類	少ない
きく	黒斑病・褐斑病	平年並～やや多い
	アザミウマ類	やや多い

※予想発生量は、平年値（概ね過去10年の平均）に比べて、「多い・やや多い・並・やや少ない・少ない」の5段階で示しています。
※ねぎは令和5年度より調査開始のため、過去2年のデータを平年値としています。
※予報の根拠は下記ホームページ内の「病害虫発生予察情報」の該当月をご確認ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

水稲

ヒメトビウンカ（縞葉枯病）

ヒメトビウンカ成虫

縞葉枯病発生株

特徴

◆ ヒメトビウンカは縞葉枯病を媒介する。
◆ り病株では、新葉が垂れ下がって枯死する（ゆうれい症状）。

防除のポイント

◆ ヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
◆ 密植を避けて通風を良好にするとともに、窒素肥料の過用を避ける。
◆ ウンカ類に適用のある箱施用剤（**フェルテラゼクサロン箱粒剤、リディアNT箱粒剤、ブーンアレス箱粒剤**）等により、ヒメトビウンカの防除を徹底する。

野菜

なす（施設栽培）

すすかび病

葉の病斑

特徴

◆ 高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
◆ 発生が見込まれる時期に、**ダコニール1000、ベルクート水和剤**等を、発生を認めたら、**ファンタジスタ顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

灰色かび病

被害果

特徴

◆ 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすく、20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
◆ 開花後の花弁を取り除く。
◆ 発生が見込まれる時期に、**ベルクート水和剤、セイビアーフロアブル20**等を、発生を認めたら、**ゲッター水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

ねぎ

さび病

葉の病斑

特徴

◆ 葉面にオレンジ色のやや隆起した小斑点が多数できる。
◆ 多発すると被害葉が枯死する。
◆ 気温が22℃ぐらいで雨の多いときに発生が多い。
◆ 肥料切れした畑で発生が多い。

防除のポイント

◆ 菌は被害植物上で越冬するので、発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
◆ 発生を認めたら、**アミスター20フロアブル**、**ラリー水和剤**、**パレード20フロアブル**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

べと病

べと病の症状

特徴

◆ べと病は好適条件（気温15℃前後で多雨）が揃うと急速にまん延する恐れがあることから、予防散布が重要である。

防除のポイント

◆ 発病株は、次年度の感染源となるため、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
◆ 発生が見込まれる時期に、**ダコニール1000**、**ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤**等を、発生を認めたら、**リドミルゴールドMZ**、**ベトファイター顆粒水和剤**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ネギハモグリバエ

葉の食害痕（新系統）

特徴

◆ 葉の内部を幼虫が食い進み、その痕が細長く白い筋になる。
◆ 新系統が発見されており、従来に比べて一葉あたりの幼虫数が多く、集中的に葉肉を食害するため、葉が白化したようになる。

防除のポイント

◆ 発生初期の防除を徹底する。
◆ 発生を認めたら、**グレーシア乳剤**（ハモグリバエ類）、**アグロスリン乳剤**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

▲新系統について詳しくはこちら

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜類・花き類

シロイチモジヨトウ

幼虫

特徴

◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

◆ 本種は、ねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。
◆ 発生を認めたら、**プレオフロアブル**(ねぎなど)、**グレーシア乳剤**(ねぎなど)等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ハスモンヨトウ

幼虫

特徴

◆ なす科野菜、さといも等多くの作物を加害する。

防除のポイント

◆ 発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。また、卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
◆ 発生を認めたら、**アディオン乳剤**(さといも、さといも(葉柄)、オクラなど)、**プレオフロアブル**(さといも、なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/yotoumushirui_osaka.pdf

コナガ

幼虫　※

成虫　※

特徴

◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

◆ 発生初期に防除を行う。
◆ 発生を認めたら、**デルフィン顆粒水和剤**(野菜類)、**ディアナSC**(キャベツ、こまつななど)等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html)
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

オオタバコガ

幼虫

卵

特徴

◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫のフンが確認されることが多い。

防除のポイント

◆ 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。また、摘除した茎葉や果実に、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外へ持ち出し、処分する。
◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、早めに対応を行う。
◆ 発生を認めたら、**プレバソンフロアブル5**（なす、トマト、ミニトマトなど）、**ディアナSC**（なす、トマト、ミニトマトなど）等を散布する。

令和7年5月15日発出の病害虫発生予察注意報第1号「オオタバコガ」についてもご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2505_r7chuuihou01_ootabakoga_soshin.pdf

アブラムシ類

ワタアブラムシ※

特徴

◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

◆ 発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、**トランスフォームフロアブル**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこしなど）、**ウララDF**（なす、トマト、ミニトマト、ピーマンなど）等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

果樹

ぶどう

※注意！
　一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培（傘掛けを含む）には使用しない、等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。

灰色かび病

花がらでの症状

特徴

◆ 多湿条件で発生が多くなる。
◆ 胞子が雨や風によって飛散し、傷口等から感染する。

防除のポイント

◆ 適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
◆ 第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニールでマルチングをする。
◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
◆ 発生を認めたら、被害花穂・被害葉を速やかに取り除き、**オンリーワンフロアブル**、**ゲッター水和剤**等を散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

べと病

葉裏の症状

特徴

◆ 梅雨時期など、雨が続くとまん延しやすい。

防除のポイント

◆ 露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要である。
◆ 発生を認めたら**レーバスフロアブル、ライメイフロアブル**等を散布する。
◆ 農薬を散布する際に、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

チャノキイロアザミウマ

被害果＊

特徴

◆ 巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きくなりやすい。

防除のポイント

◆ **モスピラン顆粒水溶剤**（アザミウマ類）、**コルト顆粒水和剤**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

もも

シンクイムシ類

被害果

特徴

◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

◆ 被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
◆ 産卵期から幼虫加害期（5月上旬～7月下旬）に**モスピラン顆粒水溶剤、アディオン乳剤**等を散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

みかん

黒点病

被害果

特徴

◆ 梅雨時期など雨が続くと発生が増加する。

防除のポイント

◆ 発生が見込まれる時期に**ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤**、**ストロビードライフロアブル**(かんきつ)等を散布する。降雨が多い場合には、散布回数を増やす。
◆ ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。

※注意！
ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤は、かんきつ(みかんを除く)における使用時期が「収穫90日前まで」なので注意する。

ミカンハダニ

被害葉

特徴

◆ 梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

◆ 6月中～下旬に、**ハーベストオイル**(かんきつ)、**スプレーオイル**(かんきつ　ハダニ類)等のマシン油剤を散布する。
◆ 発生を認めたら、**スターマイトプラスフロアブル**(かんきつ)、**マイトコーネフロアブル**(かんきつ)等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
◆ 薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

カイガラムシ類

ナシマルカイガラムシの被害

特徴

◆ ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)等が加害する。

防除のポイント

◆ 幼虫発生期に**モスピラン顆粒水溶剤**(かんきつ)、**トランスフォームフロアブル**(かんきつ)等を散布する。

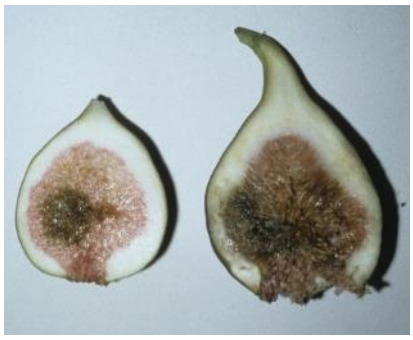
幼虫発生期
ナシマルカイガラムシ:5月下旬～6月中旬、8月上旬～中旬
ヤノネカイガラムシ:5月下旬～6月下旬、8月中旬～9月上旬

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html)
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

いちじく

アザミウマ類



被害果

特徴

- ◆ 主にネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマ等がいちじくを加害する。
- ◆ 果実の横径が2.5～3.0cmの頃から2週間程度の間に侵入する。
- ◆ 果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆ 成虫発生期（5月下～6月中旬）に**ディアナWDG**、**グレーシア乳剤**等を散布する。
- ◆ ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

果樹類

果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシ

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。
- ◆ 園地により飛来量が大きく異なる可能性があるので、園内を見まわり発生及び被害状況を確認する。

防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、カメムシ類に適用のある**スタークル/アルバリン顆粒水溶剤**（もも、かんきつ、ぶどう、かきなど）、**アディオン乳剤**（もも、かんきつ、かきなど）等を散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

花き

きく

黒斑病、褐斑病

病斑*

特徴

◆ 雨滴によって感染が拡大する。
◆ 病原菌の生育適温は24～28℃ぐらいである。

防除のポイント

◆ 被害葉は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
◆ **ダコニール1000**等を散布し、予防に努める。
◆ 発生を認めたら、**ベンレート水和剤、ストロビーフロアブル**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

注）ダコニール1000は、花弁に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので着色期以降の散布はさける。また、かぶれに注意する。
ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類

ミカンキイロアザミウマ成虫※

特徴

◆ 品種により被害の現れ方に差がある。
◆ 花弁にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなどが加害し、葉には主にクロゲハナアザミウマなどが加害する。
◆ ミカンキイロアザミウマはウイルス（TSWV※1、CSNV※2）を媒介する。

※1　キクえそ病の病原ウイルス　　※2　キク茎えそ病の病原ウイルス

防除のポイント

◆ ほ場内および周辺の除草を行う。
◆ きくの残さは放置せず、ほ場外へ持ち出し処分する。
◆ ビニールなどのマルチングにより、土中での蛹化を防ぐ。
◆ 施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防止する。
◆ 葉の被害に注意し、小発生時の防除を徹底する。
◆ 発生を認めたら、**ディアナSC**（花き類・観葉植物（除りんどう））、**アファーム乳剤**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

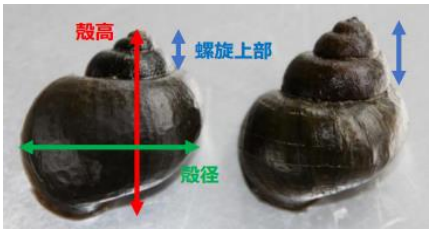
病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

その他　注意すべき病害虫

水稲

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミリンゴガイ
（ジャンボタニシ）



スクミリンゴガイ　　マルタニシ

ヒメタニシ

注）当該項目「スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆ 主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。

防除のポイント

- ◆ 水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。
- ◆ ほ場が凸凹の場合、深いところの稲が食害されるため、代かきをきちんと行い、ほ場を平らにする。
- ◆ 用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網（編目5mm以下）を設置する。
- ◆ 田植え直後に**スクミノン**、**スクミンベイト3**、**ジャンボたにしくん**等を散布する。

注）スクミノン、ジャンボたにしくんを使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。

卵塊

「スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）生態と防除」もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/r7sukumiringogai-osaka.pdf

果樹

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ

フラス　　成虫

幼虫

防除のポイント

- ◆ 幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。
- ◆ フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。
- ◆ フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから**ロビンフッド**（もも、すもも、うめなど）、**ベニカカミキリムシエアゾール**（もも、すもも、うめなど）を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆ 成虫羽化期に**モスピラン顆粒水溶剤**（もも、すもも、うめなど）、**アグロスリン水和剤**（もも、すももなど）等を散布する。

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策（R7.3改訂版）」もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/kubiaka osaka.pdf

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜

トマト・ミニトマト（施設栽培）

トマトキバガ

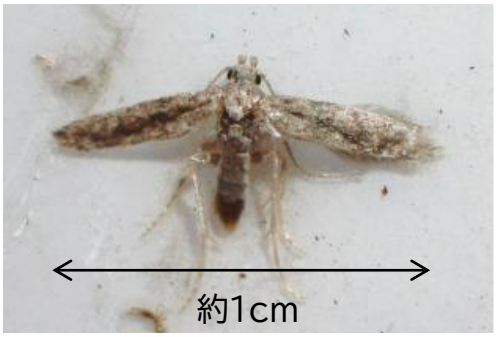


図1　府内で誘殺された成虫

特徴

- ◆ 成虫（図1）は体長5～7mm。翅は灰褐色で、黒色のまだら模様が散在する。
- ◆ 幼虫（図2）は、終齢で約mm。体色は淡緑色～淡赤白色で、頭部は淡褐色。頭部のすぐ後ろに細い黒色横帯がある。
- ◆ 成虫は夜行性で、日中は葉の間等に隠れていることが多い。卵は寄主植物の葉の裏面などに産み付けられ、終齢幼虫は土中や葉の表面で蛹化する。
- ◆ 1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。
- ◆ 主な寄主植物はトマト・なす・ピーマン・とうがらしなどのナス科植物。

図2　幼虫

図4　トマト果実の被害

図3　トマト葉の被害

トマトでの症状

- ◆ 幼虫が茎葉の内部に潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変する（図3）。
- ◆ 果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空くとともに腐敗するため、品質が低下する（図4）。

※図2～4：出典「植物防疫所Webサイト」
無断転載を禁ずる。

防除のポイント

- ◆ 発生が疑われる場合は、速やかに病害虫防除グループや最寄りの農の普及課、JA に確認する。
- ◆ 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、侵入を防止する。
- ◆ トマト、ミニトマトでは下記特殊報を参考に登録農薬を散布する。
- ◆ 被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋却するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉して寄生した成幼虫を全て死滅させてから適切に処分する。
- ◆ 薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（IRACコード）が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

詳しくは令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号「トマトキバガ」もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/95591/202310_tokusyuhou01_tomatokibaga.pdf

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。